

日刊 動労千葉

85. 2. 2
No. 1854

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

60・3 実力闘争も辞さず 決起する

順法闘争、ストライキもあきらめないで決起 できる準備体制を確立しよう 第3回支部代表決定

一月三十一日、動労千葉は「60・3」をめぐって緊迫する情勢のもとで第3回支部代表者会議を開催し、五年間で十〇十五万人を合理化する恐れなき攻撃の突破口である「60・3」に対し、国鉄労働運動の死活をかけ、動労千葉の全力量を投入した闘いに決起する2月3月闘争方針について、次の通り決定した。

十〇十五万人首切りの突破口―「60・3」

国鉄当局は一月十日、①全国一社体制の民営・特殊会社化、②一八八〇〇〇人の要員体制、③地方線切り捨て、等を骨子とする「経営改革のための基本方策」なる「再建」案を打ち出した。

これは、今後五年間で十〇十五万人を合理化する攻撃を開始することの宣言であり、「60・3」こそその突破口なのである。

われわれが直面している「60・3」は、動力車乗務員の勤務制度を改悪することでますますい労働強化を強制し、大中必要員削減を狙った攻撃であるとともに、動乗勤改悪を突破口に全職種の勤務制度改悪を狙ったものであり、十〇十五万人合理化を許すか否かをかけた決戦として闘われなければならない。

しかし、国鉄労働運動の現状は「再建」論議に埋没し、「60・3 粉碎」を後景化させつつあり、総体で反撃に決起する体制は不充分といわざるをえない。動労「本部」革マルは、大量首切りを柱とした当局の「基本方策」を全面的に支持し協力する動向にあり「60・3で国鉄を便利にします」との運動をもって国鉄労働者を売り飛ばす路線を敷ききった。

動力車乗務員の三分の一を合理化する攻撃と闘わないばかりか、当局施策を推進する動労「本部」革マルを弾劾するとともに、国鉄労働運動から追放・一掃しない限り国鉄労働者は革マルとともに地獄への道を歩む以外にないのである。

動労千葉の全力量を發揮して「60・3」に決起する

政府、国鉄当局はこうした動きに勇気づけられ、「提案したものは一歩も譲らない」「地方ごとの判断は認めない」ことを基本に各地方局を締めつけ、カサにかかった攻撃に出てきている。「60・3」ですさまじい労働強化と要員合理化を提案する一方で、「余剰人員対策」と称し直売店「キオ

スク」、車検工場、営業への転勤募集等の首切り施策を進めている。

当局は「60・3」を強行することにより労働者に無力感・屈辱感を与え、労働組合破壊を通して十〇十五万人合理化を実現せんとしているのだ。もはや、実力闘争を背景にしない限り、一歩も前進しない事態にたち至った。十〇十五万人首切りの導火線―「60・3」をあいまいな形で許してはならない。

動労千葉は国鉄労働運動の未来をかけ、いまこそこの間の闘いで培った力量の一切をかけて闘いに決起しよう。「60・3」に実力決起し、「3・24三里塚」への三たびの五割動員の貫徹を通して八五春闘の勝利、首切り「三本柱」粉碎、分割・民営化阻止、三里塚二期着工阻止にむけ闘おうではないか。

第3回支部代表で決定された「60・3」ダイ 改」阻止闘争の 具体的取り組み

- ① 団体交渉を強化し、情勢によっては公労委を活用することも含め要求の前進をはかる。
- ② 要求の実現をはかるため、2月中旬以降、順法闘争、ストライキも含むあらゆる闘いに決起できる準備体制を確立する。
- ③ どんな小さな小さな戦術の行使も決戦となる緊迫した情勢にふまえ、闘争体制の万全を期し、全組合員の徹底した討論をまきおこすため、全支部で全組合員が参加する職場集会・個別オルグ等を開催する。
- ④ 2月8日、13時、「全支部三役・乗務員会長会議」を開催する。
- ⑤ 2月中、下旬に支部代表または臨時委員会を開催する。
- ⑥ 3月2日、全国に呼びかけて「動労千葉総決起集会」を開催する。
- ⑦ 今日的情勢下で「60・3」を原則的に闘わんとするものに対して、あらゆる反動攻撃が集中することは必至であり、全支部、全組合員の階級的警戒心を高め、万全の弾圧対策を行う。